

令和元年度

松山市公営企業の業務状況 ～別冊資料～

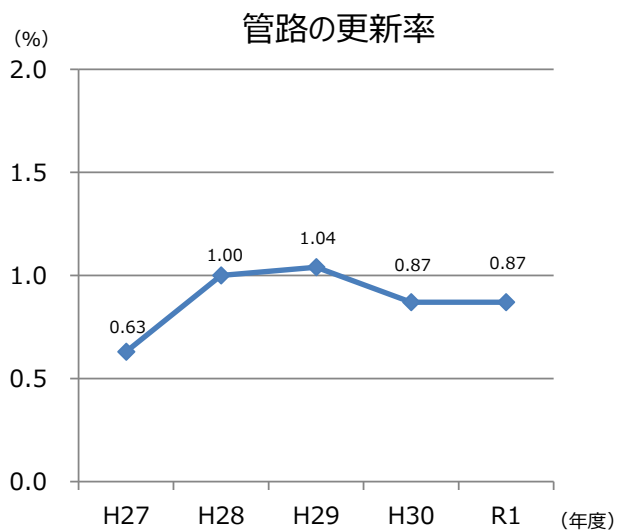
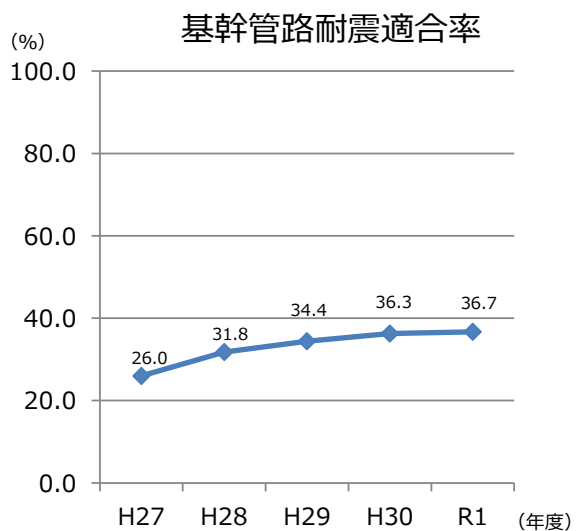
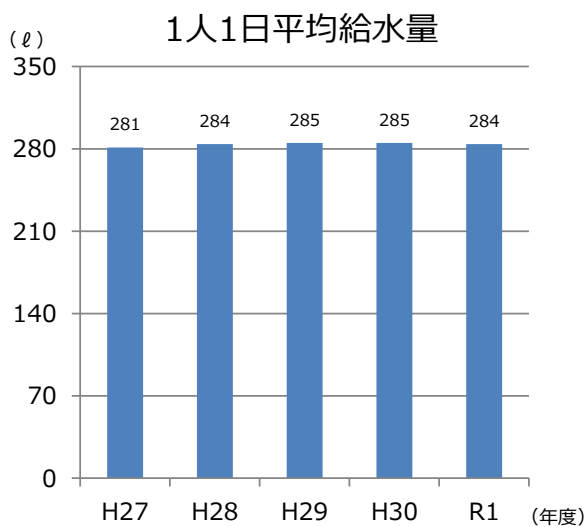
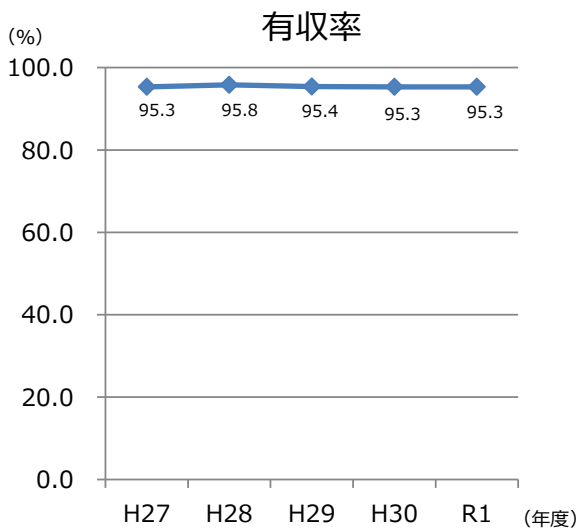
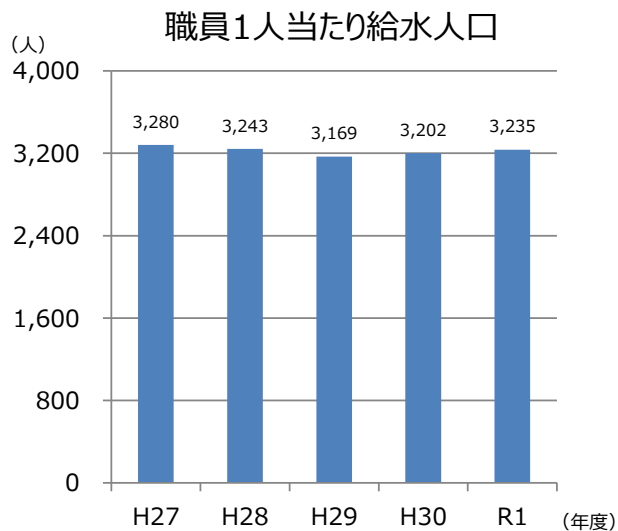
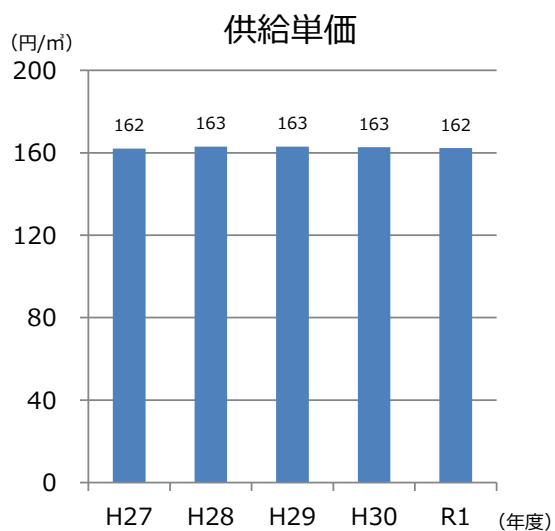
水道事業会計
簡易水道事業会計
工業用水道事業会計

目次

I	水道事業会計	
1	水道事業業務指標（1）～直近5か年の推移～	… 1
2	【参考】平成30年度水道事業業務指標（1）～中核市平均値との比較～	… 2
3	水道事業業務指標（2）～直近5か年の推移～	… 3
4	【参考】平成30年度水道事業業務指標（2）～中核市平均値との比較～	… 4
II	簡易水道事業会計	
1	簡易水道事業業務指標～直近5か年の推移～	… 5
III	工業用水道事業会計	
1	工業用水道事業業務指標～直近5か年の推移～	… 7
2	【参考】平成30年度工業用水道事業業務指標～類似団体平均値との比較～	… 8

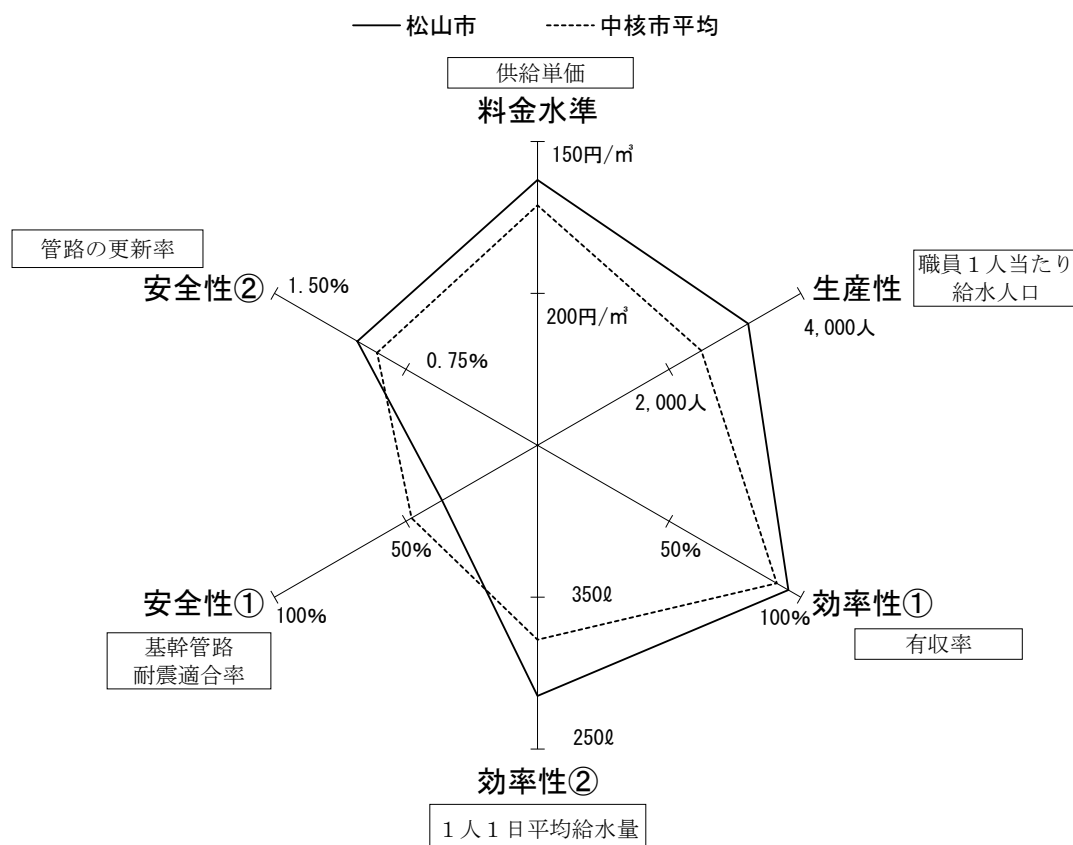
I 水道事業会計

1 水道事業業務指標（1）～直近5カ年の推移～



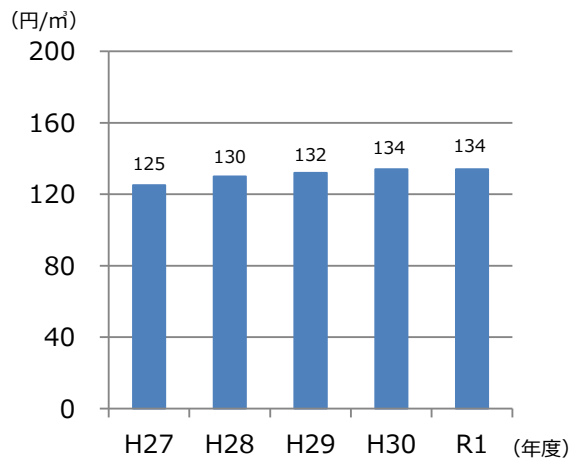
2 【参考】平成30年度水道事業業務指標（1）～中核市平均値との比較～

項目	指標	単位	松山市	平均	算定式	備考
料金水準	供給単価 (平成30年度)	円/m ³	163	171	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
生産性	職員1人当たり 給水人口 (平成30年度)	人	3,202	2,488	$\frac{\text{給水人口}}{\text{損益勘定職員数+資本勘定職員数}}$	高い方が良い
効率性①	有収率 (平成30年度)	%	95.3	90.9	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量(給水量)}} \times 100$	高い方が良い
効率性②	1人1日 平均給水量 (平成30年度)	ℓ	285	322	$\frac{\text{1日平均給水量(配水量)}}{\text{給水人口}}$	低い方が良い
安全性①	基幹管路耐震適合率 (平成30年度)	%	36.3	47.9	$\frac{\text{耐震適合性のある管路延長(基幹管路)}}{\text{管路延長(基幹管路)}} \times 100$	高い方が良い
安全性②	管路の更新率 (平成30年度)	%	0.87	0.72	$\frac{\text{更新された管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	高い方が良い

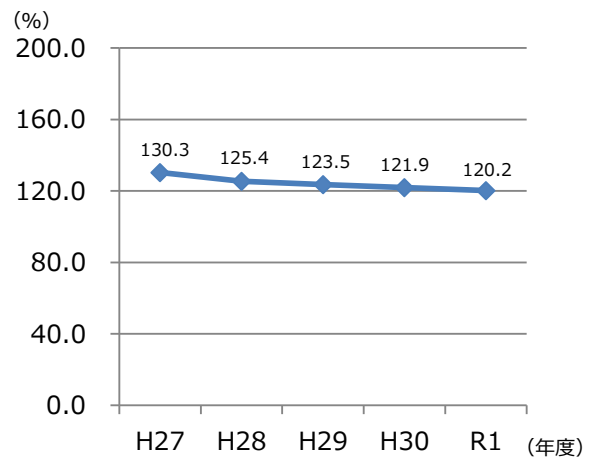


3 水道事業業務指標（2）～直近5カ年の推移～

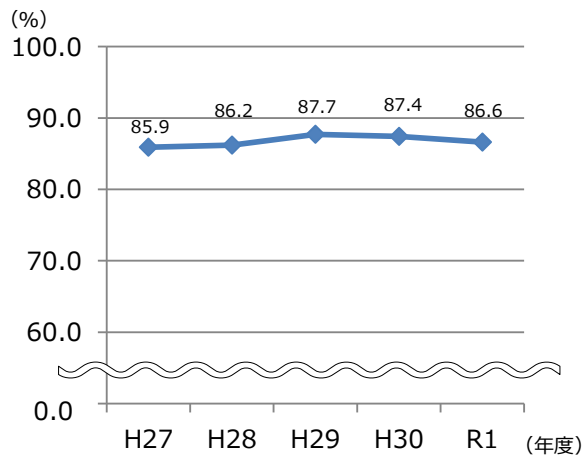
給水原価



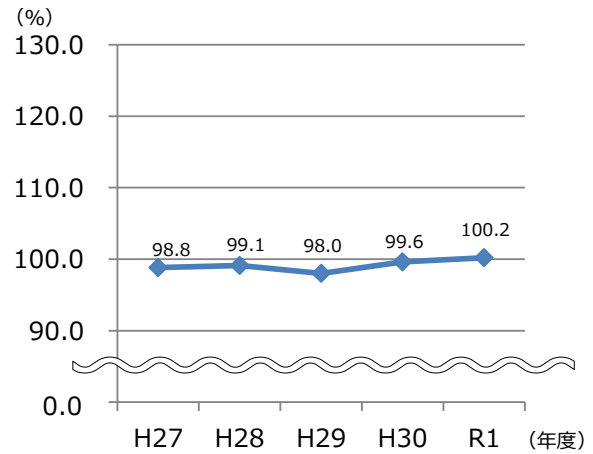
営業収支比率



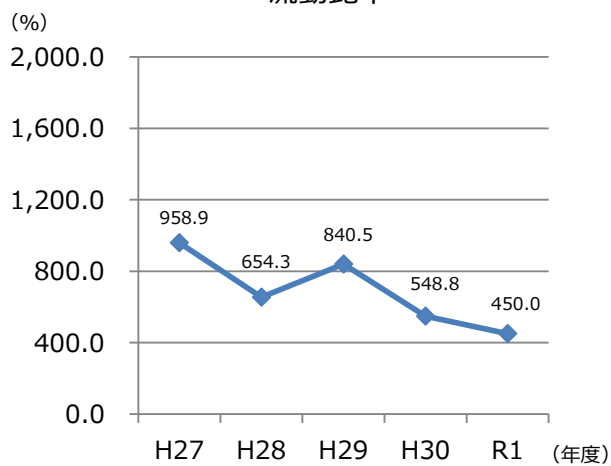
自己資本構成比率



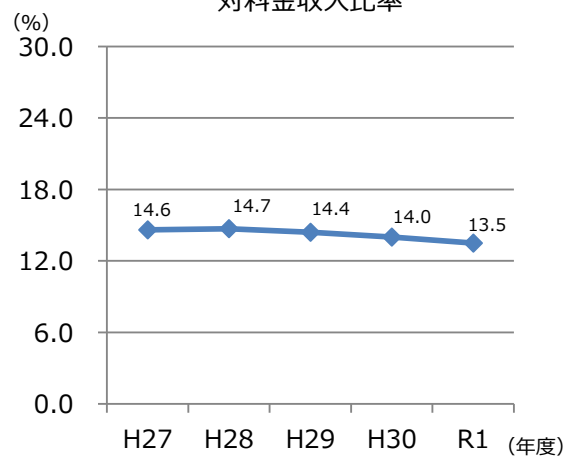
固定比率



流動比率

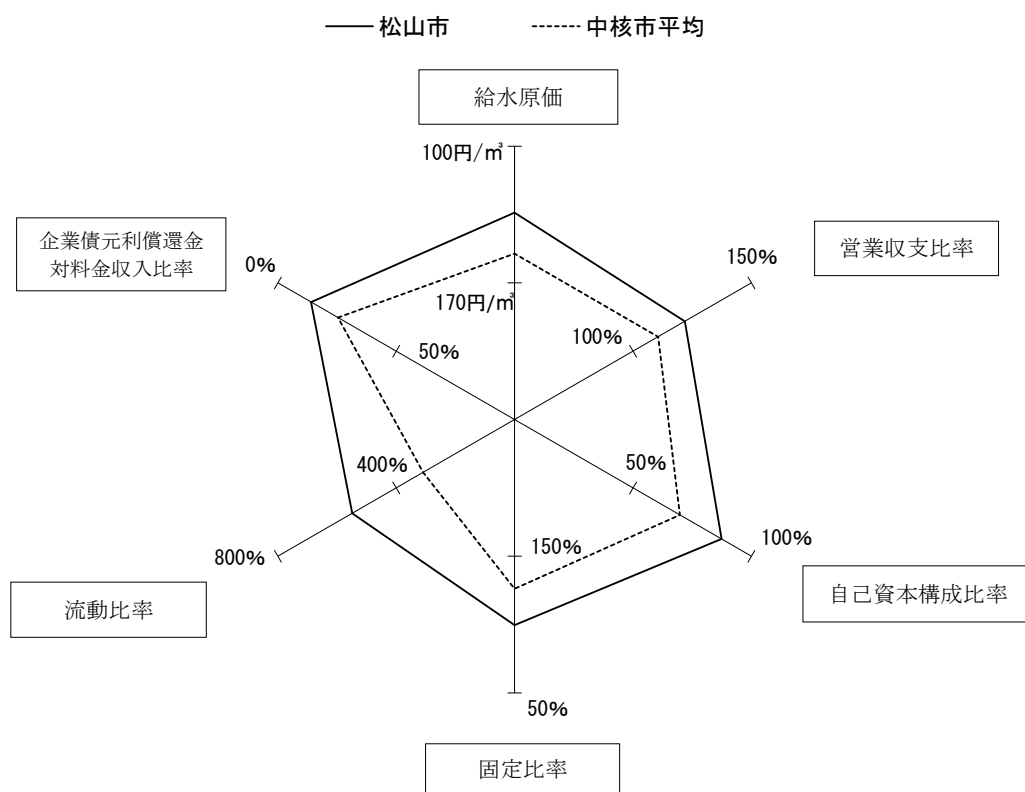


企業債元利償還金
対料金収入比率



4 【参考】平成30年度水道事業業務指標（2）～中核市平均値との比較～

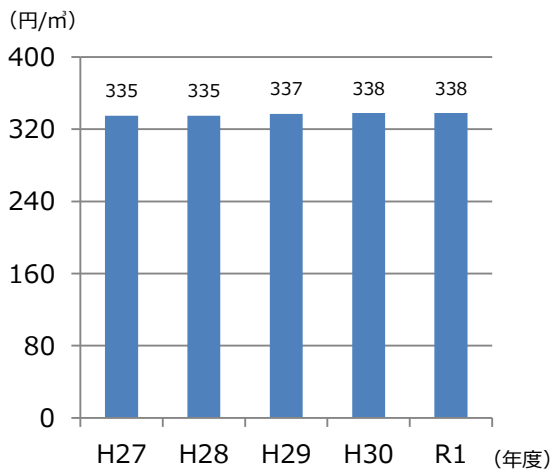
指標	単位	松山市	平均	説明	算定式	備考
給水原価 (平成30年度)	円/m ³	134	155	有収水量1m ³ を生産するためにかったコスト	$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事収益} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯工事費} + \text{長期前受金戻入})}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
営業収支比率 (平成30年度)	%	121.9	110.6	営業収益の営業費用に対する割合で、本来の営業活動の収益力を見る指標(100%を一定程度上回る必要あり)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	高い方が良い
自己資本構成比率 (平成30年度)	%	87.4	69.8	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	高い方が良い
固定比率 (平成30年度)	%	99.6	126.2	固定資産を自己資本でどの程度賅っているかを示す財務構造の安定度(安全性)を見る指標 ・理想 100%未満 ・健全 100%～120% ・過剰投資 200%以上	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$	低い方が良い
流動比率 (平成30年度)	%	548.8	309.3	流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払い能力を示すもの(理想比率は200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	高い方が良い
企業債元利償還金 対料金収入比率 (平成30年度)	%	14.0	25.4	料金収入に占める企業債元利償還金の割合	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{給水収益}} \times 100$	低い方が良い



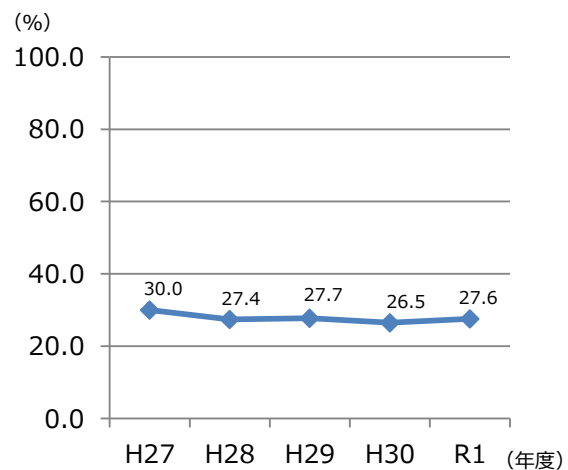
Ⅱ 簡易水道事業会計

1 簡易水道事業業務指標～直近5カ年の推移～

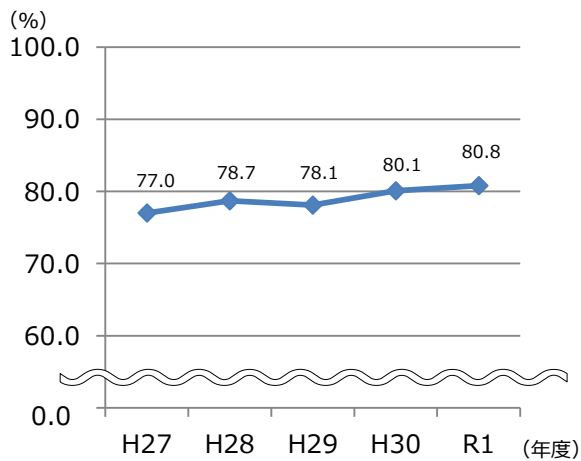
供給単価



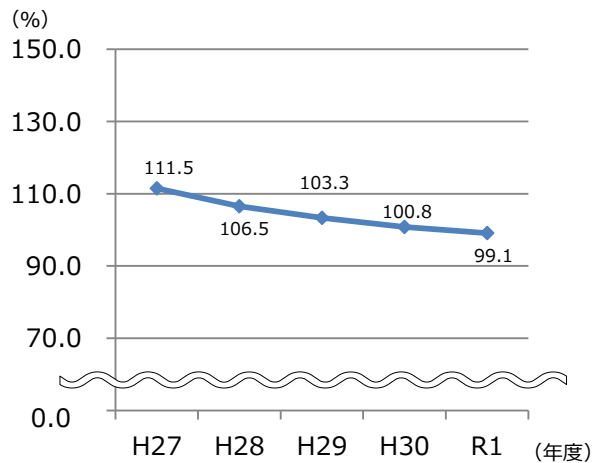
営業収支比率



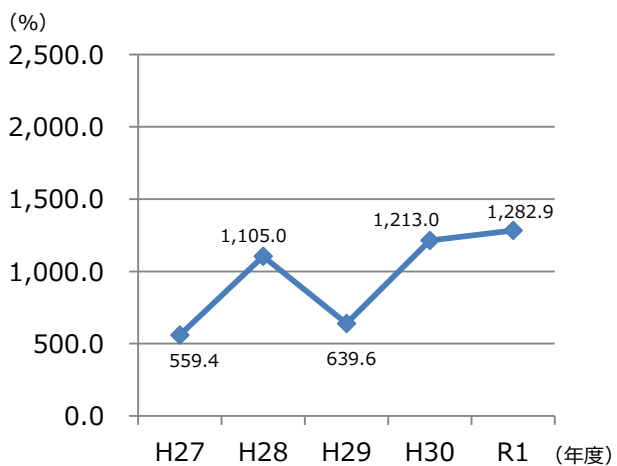
自己資本構成比率



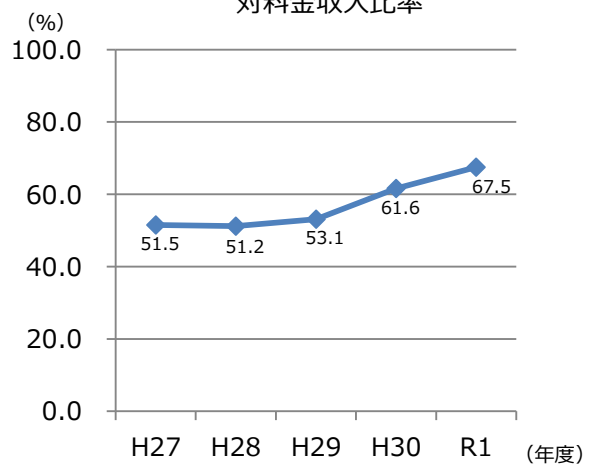
固定比率



流動比率



企業債元利償還金
対料金収入比率



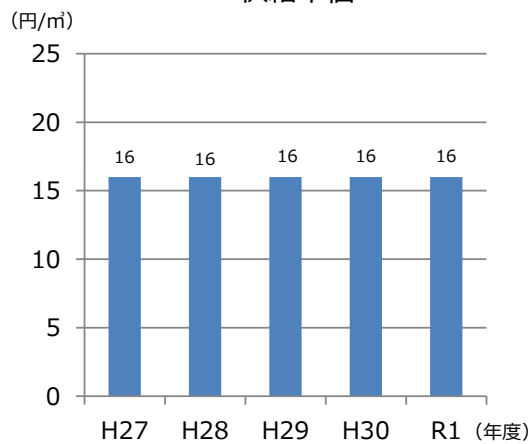
簡易水道事業業務指標の説明と算定式

指標	単位	説明	算定式	備考
供給単価	円/m ³	有収水量(料金算定分)に対する給水収益	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
営業収支比率	%	営業収益の営業費用に対する割合で、本来の営業活動の収益力を見る指標(100%を一定程度上回る必要あり)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	高い方が良い
自己資本構成比率	%	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	高い方が良い
固定比率	%	固定資産を自己資本でどの程度賅っているかを示す財務構造の安定度(安全性)を見る指標 ・理想 100%未満 ・健全 100%~120% ・過剰投資 200%以上	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$	低い方が良い
流動比率	%	流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払い能力を示すもの(理想比率は200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	高い方が良い
企業債元利償還金 対料金収入比率	%	料金収入に占める企業債元利償還金の割合	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{給水収益}} \times 100$	低い方が良い

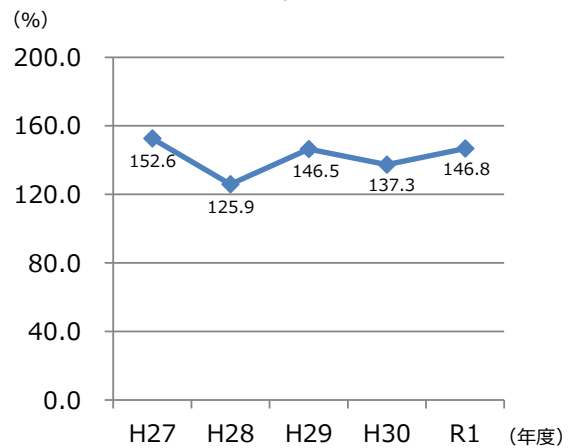
Ⅲ 工業用水道事業会計

1 工業用水道事業業務指標～直近5カ年の推移～

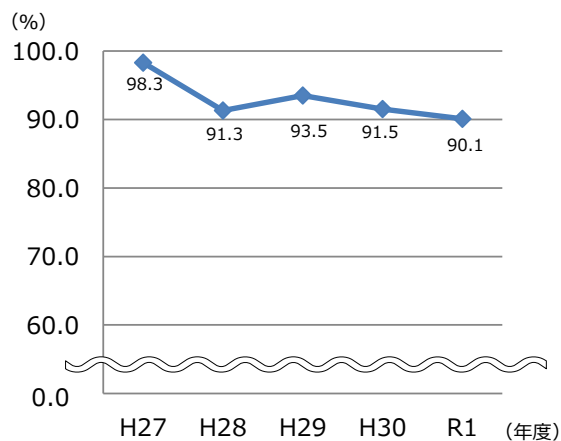
供給単価



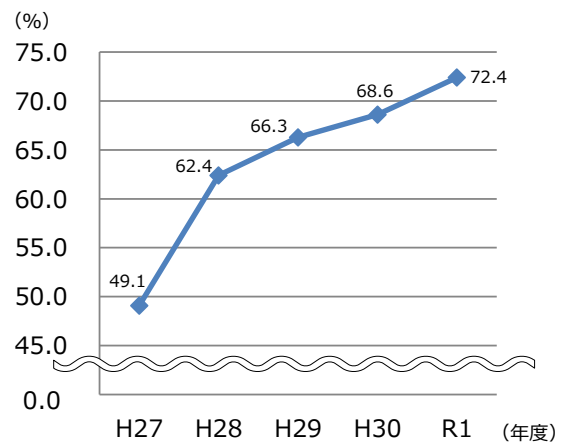
営業収支比率



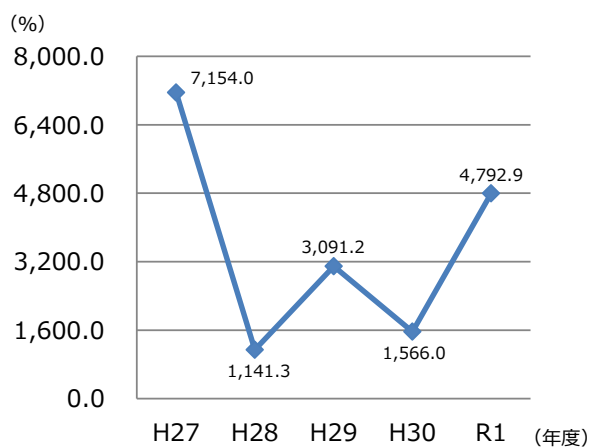
自己資本構成比率



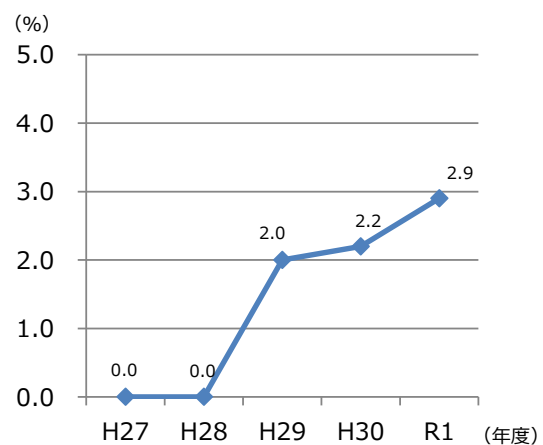
固定比率



流動比率



企業債元利償還金
対料金収入比率



2 【参考】平成30年度工業用水道事業業務指標～類似団体平均値との比較～

指標	単位	松山市	平均	説明	算定式	備考
供給単価 (平成30年度)	円/m ³	16.0	28.2	有収水量(料金算定分)に対する給水収益	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
営業収支比率 (平成30年度)	%	137.3	102.4	営業収益の営業費用に対する割合で、本来の営業活動の収益力を見る指標(100%を一定程度上回る必要あり)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	高い方が良い
自己資本構成比率 (平成30年度)	%	91.5	74.5	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}}{\text{負債+資本合計}} \times 100$	高い方が良い
固定比率 (平成30年度)	%	68.6	103.9	固定資産を自己資本でどの程度賄っているかを示す財務構造の安定度(安全性)を見る指標 ・理想 100%未満 ・健全 100%～120% ・過剰投資 200%以上	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}} \times 100$	低い方が良い
流動比率 (平成30年度)	%	1,566.0	655.7	流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払い能力を示すもの(理想比率は200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	高い方が良い
企業債元利償還金 対料金収入比率 (平成30年度)	%	2.2	21.5	料金収入に占める企業債元利償還金の割合	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{給水収益}} \times 100$	低い方が良い

